

祝 1月9日(月・祝) きらぼし 式典テーマ『煌星』

令和5年 箱根町20歳を祝う会



民法の改正により「成年年齢」が20歳から18歳に引き下げられたため、成人式は「20歳を祝う会」へと名称を改め、20歳の方を対象に開催されました。

今年もコロナ禍での開催となりましたが、実行委員の皆さんはリモート会議などを駆使して入念に準備を進められ、「大人としての自覚と責任を持ち、思い出に残る会としたい」という思いから、感染症対策を徹底した3年越しとなる「交流会」の開催や、SNSを活用したP.R.、町内の企業や団体に協賛を募り、記念品や交流会の景品に活用するなど、さまざまな工夫や試みが施されました。参加した60名の20歳のみなさんの笑顔は、『煌星』のように輝いていました。



20歳代表のこぼ (松本晃太郎さん)

今回初めて実行委員会にアドバイザーとして参加しました。実行委員の6人は、会議以外でも連絡をとりあって役割分担し、協力しあいながら新たなことにチャレンジしていました。私は、委員全員が無事に当日を迎え、式典が成功することを祈る！ことしかできませんでした。

当日は、多数の町職員のご協力のもと設営やリハーサルなどが無事終了！本番の式典・交流会は大盛況からの大成功でした。20歳を祝う会は、20歳を迎えたみなさまにとっても、子どもたちを立派に育てあげた保護者にとっても、かけがえのない素晴らしい時間となりました。

最後に、20歳を迎えたみなさまへ、これからのご活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。協力して下さった企業・団体のみなさま、町職員のみなさまに感謝いたします。 金子裕子さん(温泉地域)



編集後記

コロナに対して社会環境が良い方向へ変わっていくと思えますが、まだまだ油断はできません。さまざまな行事に多くの子どもたちが参加してくるようになり、日頃から子どもたちとのつながりを大切に、力になれる存在でありたいと思います。

今後とも、私たちの活動にご理解、ご協力をお願いいたします。

広報部会長
勝俣純子さん(仙石原地域)

大樹

箱根町 青少年指導員 大樹 検索



発行
箱根町青少年指導員連絡協議会
会長 湯川 耕一
箱根町湯本266番地
箱根町教育委員会内
電話 0460(85)7601

会長挨拶



湯川 耕一(宮城野地域)

青少年を取り巻く状況は、少子化・核家族化などの家庭環境の変化、インターネットの普及による社会環境の変化に伴い、いじめや

児童虐待・子どもの貧困・ネットやゲーム依存・有害情報の氾濫に加え、新型コロナウイルスの影響によるコミュニケーション不足や人間関係の希薄化などの課題に直面しています。

我々青少年指導員は、「子どもは地域で育てる」・「大人が変われば子どもも変わる」のもとに、これまで以上に地域・学校・家庭の連携で青少年の健全育成を目指していきたいと思えます。

今後とも、みなさま方のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

11月27日(日) 県立保健福祉大学(横須賀市)にて開催された第53回神奈川県青少年指導員大会において、湯川耕一会長が「神奈川県青少年指導員連絡協議会表彰」を受賞されました。



青少年の健全育成を進める 県民大会

1月21日(土) 麻生市民館(川崎市)にて開催され、湯川耕一会長と小林誠指導員が出席しました。

「青少年のために、今できること～ポストコロナ時代の地域支援～」をテーマに、講師による基調講演や、有識者や青少年によるパネルディスカッションが行われました。



青少年指導員の活動紹介

12月18日(日) 防災活動体験会

水消火器による消火訓練

大須賀通浩さん(仙石原地域)

「備えあれば憂いなし」

日本では、15分に1件の割合で火災が発生しています。火災を防ぐには、初期消火(出火から1~2分で鎮火)が重要とされており、これ以上の時間が経つと自分での消火活動は不可能といわれています。

消火訓練では、小学生が消防士の方々に正しい消火器の使い方を学び、実際に触って、安全装置を外して、的をめがけて放水して…と楽しみながら取り組んでいました。小学生・消防士・青少年指導員が交流を深めながら楽しい時間を過ごすことができ、とても良い体験だったと思います。

重要なのは、火災を起こさないことです。みなさんも火事を防ぐ取り組みを忘れずに。



避難所運営ゲーム『避難所HUG』

笹川満寿美さん(箱根地域)

体育館や教室を避難所に見立て、カードに書かれた避難者を図面の上に配置していきます。配置に関して詳細なルールなどは決めず、参加者の自由な意見と発想で避難所運営が展開されます。

避難所では、カードをめくると避難者の来訪に加え、トイレや喫煙場所の設置や、ライフラインの復旧、取材の対応といった様々な出来事が起こります。参加した子どもたちは、互いの意見を聞き、認め合いながらゲームを進行し、出てくるアイデアは指導員も驚かされるほどしっかりと考えられていました。

振り返りでは、「自分たちにもできることがあるかもしれない。」といった心強い感想が寄せられ、箱根町の若い力に期待がもてる避難所運営ゲームとなりました。



参加者には防災食のプレゼントがありました(NPO法人報徳食品支援センターさんご提供)

2月26日(日)~3月21日(火) 地域再発見ツアー

小林誠さん(温泉地域)

温泉地域では、2月26日(日)に地域再発見ツアーを実施し、はじめて箱根フリーパスを購入して箱根のゴールデンコースと呼ばれるエリアを観光してきました。

日頃、自家用車で箱根の中を移動することが多い私たちは、恥ずかしながら楽しんでしまい、すっかり観光客に溶けこんでしまいました。休日であったため道の交通機関も混雑しており、特に大涌谷ではロープウェイの定期点検のため代行バスを利用しましたが、大涌谷に入る道路の渋滞により乗車までかなりの時間がかかりました。あらためて、こんなにも大勢のお客様が箱根を訪れ、混雑の中で観光されているのだと感じました。

箱根ジオミュージアムでは、箱根の火山のことを知り、箱根駅伝ミュージアムではお正月の感動を思い出し、駅伝の歴史も学びました。普段は何気なく通り過ぎている場所も、あらためて見つめることで新たな発見ができることに気づきました。今回の研修を終えて、私たちと同じ感動と、新たな発見を、子どもたちにも体験してもらいたいと思っています。これからも、日常生活の中で地元に興味を持ちながら、より良い活動や体験ができるよう地域で協力していきます。



勝俣広子さん(宮城野地域)

私たち宮城野地域は、陶芸体験と箱根フリーパスを利用した箱根周遊コースを周る研修を2月26日(日)に行いました。

強羅陶芸工房での陶芸体験は、講師による丁寧なご指導のもと、手びねりとろくろの2つの方法でコップやお茶碗を作りました。ときに楽しく、ときに無心で作品づくりに没頭し、焼きあがりの完成が待ち遠しく感じる体験となりました。その後は様々な乗り物を使い、箱根一周を巡りました。混雑もあり、途中でコース変更をせざるを得ない状況になるなど、計画どおりには進みませんでしたが、その事も含め、普段は体感できない様々な経験ができたことに加えて、観光客のみなさんの気持ちを理解することができました。

行く先々ではたくさんの地域の方との交流があり、ときには差し入れをいただくこともありました。あらためて箱根町の魅力に気づき、この町に住もうみなさんの温かさに触れることができた素敵な一日となりました。この研修で得た箱根を愛する心やおもてなしの心を、子どもたちに伝えていく活動へつなげていきたい



これは箱根町のどこにあるでしょう？探してみてくださいね！

地域の青少年指導員からのメッセージ

湯本地域 (勝俣 建吾・端 千春・鈴木 美貴)

日本でコロナの感染者が確認され3年目となり少しずつではありますが、生活の中に新しく生まれた規制が緩和されています。コロナ禍にあって様々な事が制限され、青少年指導員として、児童、生徒との関わりがなくなり、子どもたちも上級生が行ってきた活動を自分たちが経験できなかったことは、とても残念に思っていると思います。

コロナ禍以前のように戻るとは難しいと思いますが、令和5年度はできる範囲の中で子どもたちと一緒に活動ができることを願います。



温泉地域 (勝俣 恵美子・金子 裕子・小林 誠・瀧 知子)



温泉地域は大平台・宮ノ下・小涌谷の3地区で育成会と連携して活動しています。コロナ禍で今までと同じような活動ができていませんが、少しずつ日常が戻りイベントも実施できることを願い、子どもたちと楽しく活動ができるような取組みを考えていきたいと思っています。



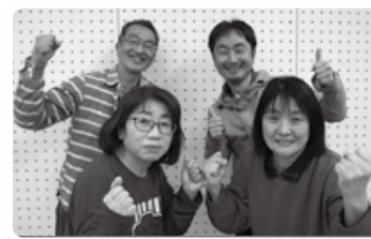
宮城野地域 (湯川 耕一・松本 卓・水野 奏・勝俣 広子)

宮城野では、一部の地域行事やお祭りなどが開催され、少しずつではありますが着実に再始動のきざしが見えてきています。例年、地域のお祭りやさまざまな行事の他、夏休みの夜間にパトロールを行い、学校の先生や交番のお巡りさん、自治会の皆さんと一緒に子どもの見守り活動を行っていますが、普段の日常生活のなかでも、自然と子どもたちを気にかける自分がいることにふと気が付き、それが当たり前になる習慣になっていることを感じた今日この頃です。

これからも家庭・学校・地域のつなぎ役として、みんなが同じ方向を向きながら、地域ぐるみで連携を深めていきたいと思っています。



仙石原地域 (酒寄 繁基・勝俣 幸代・勝俣 純子・大須賀 通浩)



3年目のコロナ禍、仙石原地域も制限付きではありますが、少しずつ活動ができるようになってきました。9月25日に行われたすすき祭りでは、子どもたちの姿も多くみられ、メンバーで見守り活動を行いました。また、2月25日には3年ぶりにざっこの会、仙子連と協力して天神講を開催し、傘袋口ケットを子どもたちと一緒に作り、みんなで飛ばして遊びました。来年度は、笑顔あふれるイベントの一つでも多く開催できるよう、地域と連携して頑張っていきたいと思っています。



箱根地域 (大場 征広・笹川 満寿美・安藤 弘毅・浅井 秀樹)

箱根地域では、今年度も芦ノ湖夏まつりウィークが開催され、湖水祭り・鳥居焼祭りでは箱根中学校 PTA と連携して夜間パトロールを実施しました。

コロナ禍の中で思うように活動ができず、少子化により子どもたちとふれあう機会も減ってはいますが、今後も青少年の健全育成のために各団体と協力して活動していきたいと思っています。

